

本能まちづくりニュース

第1号 平成11年12月24日発行
本能まちづくり委員会
委員長 西嶋直和

本能まちづくり委員会設立総会開催される

平成11年12月1日、元本能小学校会議室で「第1回本能まちづくり委員会」が設立総会



をかねて開催されました。

総会には、まちづくり準備委員・公募委員あわせて18人、(財)京都市景観・まちづくりセンターから3人、三和総合研究所から2人、中京区役所から1人の参加者がありました。

この日は、西嶋直和まちづくり準備委員会委員長から設立の趣旨説明があり、参加者の自己紹介のあと、会則

案が承認されました。本能まちづくり委員会委員長に西嶋直和さんが推薦され、満場一致で承認されました。西嶋直和委員長から「まちづくりに参加できる事を幸せに思っている。魅力のある町には魅力のある人がいる。みんなで魅力のある町を作っていきたい。」との挨拶があり、議長に西嶋直和さんが選出されたあと、世話人が選出され、事業予提案・予算案が承認され設立総会を終了しました。

つづいて、京都府立大学生活科学科宗田好史助教授による記念講演があり、それをもとに三和総研・善積康子さんの進行によって活発な意見交換がなされました。

今後の予定

平成12年
1月17日 月例委員会
2月 1日 月例委員会
2月 他のもちづくりの視察およびヒアリング
3月 1日 月例委員会
3月 本能の「まち」再発見活動

世話人のみなさん

委員長	西嶋直和 (藤西町)
副委員長	中村光雄 (池須町)
副委員長	杉下浩教 (三条油小路町)
総務	木村孝次 (三条油小路町)
広報	岡田 稔 (塩屋町)
会計	安西賢一 (元本能寺南町)
監査役	岡山 悟 (越後町)
監査役	平野雅左夫 (壺屋町)
顧問	安西圭之助 (本能自治連合会会長)
顧問	西村嘉朗 (山田町)

技術と伝統を後世に

本能自治連合会安西圭之助会長

本能の職住町づくりの第一声は、平成九年の十月に会合を開きました。その頃は繊維産業のピンチの波は、本能迄浸透せず現在に至って愕然として現実に周辺の移り変わりの激しさに目を覚ました次第です。勿より染め物の街として数百年の年月と伝統を護り技を競って参りました。その技も時代の波が省力化して機械化して消えつゝある事も認めねばなりません。

しかし、我々の作業は大量に生産しても和服が盛んな時代が過ぎ、高度な技術が迎えられる現在が来ました。今こそ機械ででき得ない技術を世に示さねば成りません。本能こそ京染の歴史と伝統を世人に訴つたえる絶好の機会です。一人前になるには拾年以上の歳月の修業と仕事に対する熱意が必要です。その製化を工房公開という場において世人に見て頂くのも一つの方法と考えます。

又平安の都を開いて以来千二百年の歴史ある街です。古は歌に詠まれ天上人も牛車に乗り往来したことも、中古には荒れし都に号語して天下人と成り得た織田信長が明智光秀の反逆にあり現世の夢と消えた世に名高い本能寺の変と語りつがえた本能寺跡の地です。又念仏によってその教化の為当時都に大流行した病魔を沈滞させた空也上人の遺跡を伝える空也堂。その他歴史を跡と尋ねればいと間がありません。伝統産業の街、歴史の街、交通至便の為今やマンション化して居ますが今一度本能の町を見直し掘り起して古くの賑やかさを取り戻さうではありませんか。

当日飛び入り
大歓迎!

本能まちづくり委員会の次回開催日

平成12年1月17日(月)午後7時より

ばしょ: 本能自治福祉会館2階 小川通蛸薬師下ル

本能まちづくり委員会にご関心のある方はどうぞ! ⇒ 西嶋直和 221-6826 TEL・FAX 兼用

いま、なぜまちづくりなの?

環境の急速な変化の中、失われつつある地域の特性を、自らもう一度見つめ直し、魅力ある町、活力のある町をめざし、立場の違った人達が共生できる様、次代に悔いを残さない為にも。

本能まちづくり委員にはどんな人がなれるの?

本能学区に住んでいる人、本能学区にお勤めの人、本能学区に土地や建物を持っている人でまちづくりに熱意のある人であれば委員会に出席して委員になれます。

委員になれば会費はいるの?

会費は無料です。おもに自治連合会からの助成金でまかなわれます

委員会はいつ開かれているの?

原則として、毎月1日に本能自治福祉会館2階で開かれます。

本能まちづくりに思う

京都府立大学助教授宗田好史氏の講演より

全国的に高度経済成長期は、もう終わった。生活がよくなっていくだろうということはないな

ったと思う。ここには、昔からこの地域に住み続けている人が多くいる。この地域は、商業地域でデパートでも建てることできる。その一方では、長屋・二階建てに住んでいる人が多い。そこで京都市により、この地域を再生地域と位置付け職住共存整備ガイドプランが作成された。染めの町中京の中でも本能が一番染めが残っている。6世帯に1軒が何らかの形で染めに関係している。したがって、呉服製造の最終工程が集まっている町といえるだろう。また、室町・西陣がとのつながりを大切にしながら、小さな自立した実験などもしてはどうか。生産者と消費者との距離を縮める必要があるだろう。



さまざまなことにかかわっている中で、「職人さんだけが着物を大切にしているのは駄目。消費者がいるわけだから、消費者という前に、まずは本能にお住まいの着物に携わっていない方が、

『ここは着物のまちだ』、『染めのまちだ』と染めに興味を持ってくださるような活動をしないと消費者の心はつかめない」と感じた。

この活動の中で、このような輪を広げていくことは大切であるが、そういう中で、立場の違った方のご意見を大切することを忘れないでほしい。たとえば、マンションに新しく住まわられている方でも、ここに何らかの魅力を感じていられている。そういう方々の視点というのは、魅力あるまちをつくっていく際に、非常に重要な視点のひとつになるだろう。

どんなまちになっていくか、どんなまちにしていくか考えるのは、今から。このような場で、皆さんとディスカッションする中で、自分の思いが一人の意見ではないということを感じることができ、また、自分の中で意見が練れ、自分の意見が磨かれ、何か形になっていくという場だと思う。

本能に注目している人はたくさんいて、本能で活躍したいという友禅作家がいるというのもひとつですが、本能の職人さんや住民さんの気持ちというのを上手にくみ上げていくことが、その作家の気持ちや消費者の気持ちにこたえるというか、京都が京都の文化を守っていく責任

があるとするならば、その重要な一端を皆さんが担っているということをご自覚いただきたい。

もちろん、皆さんが暮らしやすくなって、安心した長く住める楽しいまちになっていくことが一番の目標ではありますが、もうひとつ、本能学区の皆さんが、京都の都心部の中京の本能に住んでおられるということに、自身と自負と責任を感じていただきたいというのが願いです。

みんなで意見を出し合いました

- 呉服を扱っている人が着物を着ない。着物を愛さなければならぬ。子供から見たとき着物はダサイ。
- 子供のころは80%くらいは染屋さんだった。まちは箱づくりの前に人づくりだと思う。
- 消費者の立場で染めを手に入れることはない。子供の友人の関係は、染めにつながりがあり、育てやすい。子供が遊びに行っても、行き先がどのようなお宅かわからないお宅が増えてきた。
- 自分たちの時代より安心して子供を育てにくくなっている。
- マンションが増えて、人口が増えたが、町並みも残していきたい。
- 子供の代まで染めを続けていけるのかどうかわからない。
- 生活ができないので、この仕事から遠ざかっていく。生活ができれば続けていける。奥さんも一緒に仕事をしている。
- 職住共存だから子供のときから家の仕事を見てきた。職住共存は大切だ。
- 産業としての染めのまちも大切だが住民の意識も問題だ。まとまりがあるが、排他的で、外から入りにくい。
- 染めを廃業する人が増えて、この技術が衰退するのは寂しい。職人すら、他工程のことはわからないらしい。町内の半数以上が60歳以上だ。将来、職住共存が継承されなければ意味がない。
- 染めの町は衰退してきた。マンションによって、人口は増えたが職業の匂いがしなくなってきた。

- マンションの住民にも、行事に参加してもらうように努力する。子供のある家庭は地域行事に参加しやすい。こちらから行って、誘ったほうが溶け込みやすい。

- マンションに住んでいる。京都生まれではないが、京都が好きだ。京都では三代住まなければ仲間に入れない。地域のことがよくわからない。運動会の時などは、抽選に行くだけだ。

- 年始まわりくらいは黒のダブルを着ないで着物を着たら。
- 着物を着るとよい面もある。場所を選んで着物を着ていければよいと思う。
- 本来の仕事の続けながら新しいことにチャレンジすればよい。
- 女性、若い人の意見も聞いて方向付けしたほうがよい。
- 職住共存を考えるなら、30~40才代の方が住んでいられるまちづくりをしなければならぬ。
- 作家活動がしたい人に貸すことを考えればどうか。また、彼らを誘致すればどうか。
- マンションとの共生を考えなければ。
- マンションの方と一緒にわれわれの手で発展させたい。

編集後記

師走も残すところ後わずか。やっと発行できました。編集のときには、まちづくりセンターの高木課長、吉田さんそして三和総研の善積さん、島崎さんにはいろいろご指導をいただきました。ありがとうございます。

素人集団ですが、できるだけわかりやすい本能まちづくりニュースを二ヶ月に一度お届けしたいと思っています。 MO